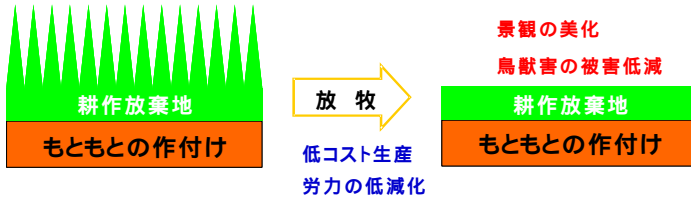


～ 県における耕作放棄地対策について ～ 愛媛県畜産試験場

試験の背景

現在の放牧利用は、**耕作放棄地の荒廃防止・景観保全**が主体となっている。



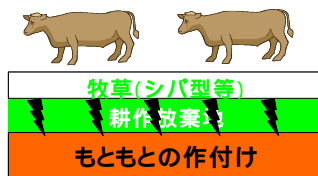
新たな作付けがなければ、放棄地は放棄地のままである。

試験の目的

放牧による景観保全を目的にするのではなく、**新たな作付けのための前処理(手段)と位置付け**、耕作放棄地の根本的な解消を検討する。併せて、放牧に対する理解を深めてもらうことを目的とした。

新たな作付け方策

畜産利用



耕種利用



・ 実証概要 1 (平成15年5月～現在)

実証場所：上島町（旧岩城村）

放牧目的：廃園、山林を活用した畜産的利用

放牧地：みかん園（廃園含む）及び山林約2ha

放牧体系：黒毛和種繁殖牛2頭（放牧経験及び妊娠確認牛）、周年利用、補助飼料あり

調査項目：供試牛の栄養状態、繁殖性、草地化の検討

経過状況（実証1：旧岩城村）

放牧開始前（H16.5）



放牧開始後（H16.7）



・ 実証概要 2 (平成16年5月～11月)

実証場所：鬼北町 (旧広見町)

放牧目的：放棄水田の景観改善と新たな作付けの検討

放牧地：放棄水田約90a

放牧体系：黒毛和種繁殖牛2頭 (放牧経験牛、非妊娠牛)、期間放牧、補助飼料なし

調査項目：供試牛の栄養状態、放牧地の状況

経過状況 (実証2：旧広見町)

放牧開始10日目 (5月)



放牧開始6ヵ月後 (10月)



・ 実証概要 3 (平成16年5月～10月)

実証場所：今治市 (旧大西町)

放牧目的：新たな作付けの景観改善の検討

放牧地：放棄果樹園及び水田約140a

放牧体系：黒毛和種繁殖牛2頭 (放牧経験牛、妊娠牛)、期間放牧、補助飼料なし

調査項目：供試牛の栄養状態、放牧地の状況

経過状況 (実証3：旧大西町)

放牧開始前 (H16.6)



放牧開始後 (H16.8)



これまでの成果及び今後の課題

- ・ 耕作放棄地の景観美化・保全に効果があり、放牧牛の健康状態に大きな問題はなかった。
- ・ 畜産のメリットとしては飼料費の節減、敷き料の低減等に効果があった。
- ・ 関係機関の連携協力により、周辺からの悪臭やハエ等の問題に早急に対応ができた。
- ・ 水田放牧は、傾斜地に比べ電気牧柵の設置のための労力や経費が抑えられた。
- ・ 水田は樹園地に比べ、雑灌木の侵入が少なく短期間の景観改善が可能であった。
- ・ 水田の石垣や畦では、小さいものの崩壊が確認された。
- ・ 放牧による景観改善は、高さ2m程度までの雑灌木が限界である。

まとめ

- ・放牧技術が耕作放棄地の景観改善に効果があることは認められたものの、その後に新たな作付けがなければ放棄地面積の減少につながらないことから、今後の放牧技術は、耕作放棄地の景観美化等が目的ではなく、放棄地解消のための手段として推進されることが望ましい。
- ・放牧技術は万能な特効薬ではなく継続的な活用が成果を上げるため、放牧実施地域と協議のうえ周辺環境に配慮した持続的な放牧計画を検討する必要がある。

課題

- ・放牧を活用した畜産振興を図るためには、放牧前後の繁殖性の調査による生産性の検討、発情の同期化等の効率的な生産体制を検討する必要がある。